



慶應義塾大学ビジネス・スクール

有機農産物市場に関するノート

21世紀を迎え、農薬や化学肥料に頼った農業が自然環境や人々の健康を犠牲にしている
という認識が高まり、有機農産物市場は世界各地で拡大している。

オーガニック食品に関する基準や認証制度が早くから整備されてきた欧米諸国と異なり、
日本の有機農産物は1992年に制定された「有機農産物及び特別栽培農産物に係る表示ガイ
ドライン」にも法的強制力がなかったことから、定義すら曖昧だった状況を改めるため、
2001年4月にJAS法（「農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律」の略称）
が改正され、「有機農産物」が公式に定義され、登録認定機関による認証を受けたJASマー
ク貼付のものでなければ「有機野菜」等の表示をしてはならないことになった。
一方、海外で生産された有機農産物を売り込む動きも活発で、日本の有機農産物市場では、
国産品に米国産や中国産などを交えた競争が激しさを増すものと見られている。

5

10

15

20

25

30

世界の有機農産物生産と市場

2002年現在、有機農産物の世界市場は年間250億ドル、栽培面積は合計約1,150万haと
推定されている。とくに欧州諸国における伸びが顕著で、この地域の有機農業実施面積は
年率30%の勢いで増え、2001年には1985年時点の35倍に達した。その結果、欧州の有機
農産物市場は年間約100億ドルの規模まで拡大している。

こうした有機農産物市場拡大の背景には、狂牛病の発生、遺伝子組換え作物の登場、農
薬による副作用の社会問題化など、食品に対するさまざまな不安が高まり、自分たちが食
べるもの栽培履歴を知りたいと思う人が増えているという事情がある。こうした消費者
ニーズに支えられ、有機農産物は世界各地でその地位を着実に築きつつあり、とりわけ欧
州では有機食品が全食品市場の3~5%を占めるようになっている。なかでも英国では、有
機農業への転換が進んでおり、同国の有機農業実施面積は1999年の5万haから2001年の
40万haへと2年間で8倍に広がった。

欧州以外の地域でも有機農業は拡大しつつあり、オーストラリアにおける認定済み農地
は530万haに及んでいる。また、米国とカナダでは、有機農業耕作面積が1990年代を
通して年率15~20%で拡大し、米国で約55万ha、カナダで約100万haとなっている。そ

このノートは、(株)農林中金研究所の木村俊文研究員と慶應義塾大学ビジネス・スクールの小野桂之介教授が各種公
刊資料をもとに作成した。[2002年9月作成]